

## トピックス

## 平成25年度第6回，平成26年度第1回イブニング技術交流サロンが開催される



2月7日(金)16時から平成25年度第6回イブニング技術交流サロンがカナルパークホテル富山(富山市)で開催されました。話題は大学院医学薬学研究部(薬学)松谷裕二教授による「創薬化学」～天然物に医薬シーズを求めて～」と題するものと、同(医学)近藤 隆教授による「がん治療を目指した医薬連携・医工連携」についてでした。前者では、新規な医薬品の基本となる生理活性天然物を探し出し、そこから分子設計、化

学合成、生物学的評価を経て創出される医薬シーズの一連のプロセスについて発表者らの取り組みを実例と共に紹介されました。ここでは、(1)抗癌性医薬品開発を指向したMacrosphelide誘導体、(2)抗腫瘍性ステロイドサポニンであるOSW-1誘導体、(3)脳神経保護作用を有するSominone誘導体、(4)抗ウイルス活性を有するフラン融合(四環系)誘導体が紹介されました。後者では、放射線による癌細胞の致死効果を増強する薬物を求めて、癌治療のための温熱療法(ハイパーサーミア)や超音波の増感剤・修飾剤の研究についてこれまで、本学薬学部、和漢研等と共同で行った研究の中からの紹介で、アポトーシス、熱ショックたんぱく質、酸化ストレス等を指標にした探索から複数の有望な候補を見出し、そのメカニズムの解明には、研究装置の作製と測定に医工連携が欠かせないことが力説されました。本サロンには学外から11名の参加があり、また、交流会には学内外から16名の参加がありました。



4月11(金)16時から平成26年度第1回イブニング技術交流サロンが同カナルパークホテル富山(富山市)で開催されました。今回は人文学部林 夏生准教授による「現代韓国の対日認識と日韓関係の展望」と大学院理工学研究部(工学)チャピ ゲンツイ教授による「日常生活で人を支援する知能ロボットに向かって」について話題提供がありました。前者では、ほんの10年前

には韓流ブームで沸いた日本社会が、今や竹島の領有権問題やいわゆる「従軍慰安婦」問題に始まり、朴槿恵大統領の「告げ口外交」、中国ハルビンに建設された「安重根記念館」問題に至る現代韓国社会の「反日」ぶりからは見えてこない韓国語メディアの言説等を介しての韓国の多様な対日認識や、社会の変調を解説されました。後者では、増加を続ける高齢者の日常生活や作業を助ける個人支援ロボットの研究の紹介がありました。それには、(1)視覚障害者のためのガイドロボット、(2)脳卒中患者の上肢リハビリロボット、(3)高齢者見守りロボット、(4)人型ロボットに関連する各種の研究中のロボットについて、その機能と役割が紹介されました。今年度から産学交流だけでなく、産産交流もできるような時間帯が設けられ、参加者相互の一層の交流が図られました。本サロンには学外から8名の参加がありました。

## 平成25年度「次世代スーパーエンジニア養成コース」修了式 及び修了記念シンポジウムが開催される



3月15日(土)13時からパレブラン高志会館 カルチャーホール(富山市)において、本学地域連携推進機構 産学連携部門主催の標記修了式並びに修了記念シンポジウムが開催されました。富山大学遠藤俊郎学長による式辞の後、コース修了者10名、科目履修者

137名に修了証が授与されました。続いて、富山大学産学交流振興会津田信治会長(北陸電気工業㈱代表取締役社長)、富山大学技術者育成協議会北野芳則副会長(元YKK㈱代表取締役副会長)から祝辞が述べられました。引き続いて、修了記念シンポジウム第Ⅰ部では、8名の各科目修了生代表よりプレゼンテーションが行われました。それぞれ、勤務先での業務紹介、受講動機、有益だった講義内容、仕事への活用・決意そして、国際力強化のためになすべきことについて述べられました。第Ⅱ部では産業界を代表する7名の方々が、国際競争力強化のための「モノづくり」と「人づくり」についてそれぞれの思いを述べ、意見交換が行われました。学内外から約150名の参加があり、大変盛況でした。その後、85名の参加を得て懇親会が開催され、修了者、産業界、大学関係者を交えて遅くまで交流が行われました。

### 今後の主な行事

行 事	場 所	開 催 日 時	内 容
第2回イブニング 技術交流サロン*	カナルパークホテル 富山 (富山市牛島11-1)	6月6日(金) 16時00分 ～18時15分	・「クラスレートハイドレートの物性と応用」 大学院理工学研究部(理学)准教授 島田 互 ・「トランスレーショナル・リサーチによる創薬研究」 大学院理工学研究部(工学)教授 豊岡 尚樹
第3回イブニング 技術交流サロン*	カナルパークホテル 富山 (富山市牛島11-1)	8月1日(金) 16時00分 ～18時15分	・「中国人技能実習生の 日本からの離脱とインドネシア人技能実習生」 経済学部 教授 坂 幸夫 ・「難病ならびに 熱帯感染症をターゲットとした治療薬の開発」 大学院医学薬学研究部(薬学)教授 今中 常雄

\*：参加には担当者(Tel.076-445-6938)までご連絡戴き、事前申込が必要です。